

11・16全国集会

弾圧には決して屈しない！

11月16日(土)、大阪・西梅田公園にて11・16全国集会実行委員会主催の「声を上げよう！弾圧ゆるすな！11・16全国集会」が開催され、全国から労働者・市民ら1200人が結集した。また、全港灣からは、関西の支部はもちろんのこと、北海道、東北、日本海、四国から地方本部代表団が駆けつけてくれた。

集会では「全日建関生支部つぶしは許さない！憲法28条、労働3権を守れ！」「沖縄の民意をつぶすな。新基地許すな！」「民主主義をこわすな！表現の自由を守れ！」の3本のスローガンが掲げられた。

全国の仲間と闘おう！

主催あいさつで藤本泰成実行委員長(平和フォーラム共同代表)は、「誰でもどこでも労働者は労働組合を作ることが出来る。憲法28条には労働3権は刑事も民事も免責になると明言されている。今回の関生支部への弾圧は権力者が「気に入らない」から排除している。今の政府は労働組合つぶし、辺野古新基地建設など、あらゆる政府に楯突く者は弾圧して潰している。私たちは決してひるむことなく全国の皆様と共に闘っていく」と決意を述べられた。

菊池進さん(連帯労組中央執行委員長)の発言では、「これまでの関生支部への弾圧に対する支援へのお礼と、最後まで絶対に屈しない」と力強い発言とさらなる支援のお願いが寄せられた。

民主主義の破壊を許さない

山城博治さん(沖縄平和運動センター議長)の発言では、「全日建関生支部へは、常から沖縄の基地問題を全国に広げる運動を率先して、沖縄の仲間へ勇気を与えてくれた。その事が弾圧の一因であ

る事は明白であり、ここに結集した人びとが今こそ一致団結して闘わなければならない」と檄をとばされた。



高橋良平さん(「表現の不自由展・その後」をつなげる愛知の会)から、「河村市長はじめネットの社会で誹謗・中傷を拡散して反対するのか?正直、わからない。やはり過去の戦争の歴史を隠したい権力者や自由や民主主義を良くしない力がある」と発言された。

憲法28条・労組法を守ろう

11・16全国集会事務局からの閉会あいさつでは、「今の世の中はおかしい!」政府は「我が国の安全保障」「自国の防衛」だと言い、多くの沖縄県民の声を聞かずに辺野古新基地建設を強行し、南西諸島への自衛隊配備を強化している。



愛知トリエンナーレ表現の不自由展・その後では憲法21条の「表現の自由」をないがしろにして、さらには禁止されている「検閲」が平然と行われた。

全日建連帯労組関生支部への未曾有の大弾圧は憲法28条で保障されている権利をことごとく無視し

て、政府や企業の言いなりにならない労働組合を無くそうとしている。だが、この国の経済を支えているのは、我々労働者である。さらに「京丹後、岩国」や全国の基地問題、原発事故により壊滅状態になった福島県と放射能の犠牲となった東北地方、関東地方の痛みを知ろうとしない原子力発電所再稼働問題、東アジアの恒久平和への敵対、人権・人種差別、幼児・保育無償化差別、など数えきれない権力弾圧が横行している。と発言し、一方、この様な現状を作り上げたのは圧力に屈しているテレビ、新聞などのメディア、そして、次世代に広げきれない我々側にも責任があり、現在の集会在マンネリ気味であると警鐘を鳴らした。そして、政府や大資本などの強力な権力を持った者に立ち向かうには少数では勝てない、韓国や香港の様に労働者や市民一人ひとりの団結が必要である。そのためには若者へ「戦争のない、差別のない、みんなが支える平和な国づくり」を伝え広げ、参加しやすい集会を作るのが私たちの責任であると訴えた。

最後に、山川義保さん(労働組合つぶしの大弾圧を許さない実行委員会・大阪)より行動提起され西天満若松浜公園までアピールデモ行進をした。

◇

わたしたち大阪支部は全日建関生支部に対する滋賀県警、大阪府警、和歌山県警、京都府警による違法捜査、不当逮捕、いわゆる刑事弾圧を単なる関生支部だけの問題と捉えてはならない。労働組合の権利として認められた「団体交渉権」を恐喝、「団体行動権」を威力業務妨害や強要未遂、「法律を守らない企業を指摘する」は、嫌がらせや脅迫とされ刑事事件として、法廷で争われている。この事を許せば、我々が勝ち取ってきた権利が無いものとされ、さらには刑事弾圧が襲い掛かってくるだけではなく、労働組合はもとより労働者は、国家や資本家の意のままにされてしまう事を、認識しなくてはならない。(書記長 小林)

全国に広がる軍拡の足おと

2019岩国行動

11月16日午後3時より、岩国市民文化会館で「19岩国・労働者反戦交流集会」が開催され、陣内副委員長と2名で参加しました。

関生支部に対する弾圧に抗議し、同日、大阪で開催された「11・16全国集会に連帯するメッセージ」と同集会の特別決議の紹介がなされました。



特別報告として陣内副委員長から9月17日、沖縄・本部港での米軍による民間港使用の阻止行動において、全港灣組合員ら100名の抗議行動で、米軍車両を追い返したことを報告しました。

また、「2015年春闘から港灣産別要求(産別最低賃金引き上げ要求)に対して、日本港運協会は『独禁法に抵触する恐れ』を理由に回答を拒んできた。産別最賃は労働組合法が定める労働協約に当たり、産別交渉で産別最賃、労働条件を引き上げることは労働者不足の解消と待遇改善の基礎になるもので事業者にとっても要である」と話しました。

また、17時30分から「反基地交流会」が開催されました。

◇各地の報告から(要約)
〈岩国市から〉

・11月3日共同通信のスクープ報道で、米軍のパイロットの規則

違反が横行していることが発覚。昨年3度の大事故があり、12月の高知沖・空中給油中の墜落事故(6名死亡)の米軍事故報告書を共同通信が翻訳し、判明したという記事でした。

〈山口県萩市阿武町から〉

- ・突然イージス・アショアの候補地に浮上。その配備には総額1兆円を超えると予想される
- ・首長も反対(平成の大合併時にも合併しないを選択。基地補助金に頼らなくても、先進化農業で生きられるし、人口も増加している)
- ・ミサイル防衛への不信感

〈福岡県築城基地延長・拡張〉

- ・沖縄の負担軽減の名目で、自衛隊築城基地滑走路延長計画と米軍の要請を受けての拡張計画
- ・自衛隊基地の米軍基地化
- ・「自衛隊なら」と容認してきた市民にも、米軍基地化へ戸惑い
- ・選挙では反対しながらも、有権者は推進候補者へ投票する地縁者の疑問や矛盾

〈沖縄県名護市辺野古から〉

- ・現地カヌー隊として報告
- ・2004年単管やぐらからの16年間の闘い
- ・出る杭は打たれるが、出過ぎた杭は打たれない
- ・絶対にあきらめない
- ・現在は西海岸にある琉球セメント岸壁からの「基地資材」の積み込みにも、カヌー部隊で阻止行動を展開している。

など、各地の闘いの報告を受けました。その後、その他の地域から

も反基地運動の取り組みの報告がありました。

◇反戦国際集会 & デモ

翌17日、9時から同じ会館で「反戦国際集会」と午後12時から米軍海兵隊岩国基地まで、デモ行進が行われました。



私は今回の参加で、各地方の報告を聞いて、共通して感じたことは、日本のどこに限らず、一度基地を容認すれば、「防衛省や地元首長との約束など守られず、反故にされる」と思いました。政府は米軍の言いなりで、さらに地位協定も立ちはだかる。16日、トランプ米大統領は日本政府に「思いやり予算」を現在の4.5倍の負担を要求したとの報道がありました。

自衛隊と米軍は一体化しつつあり、日本中、あちらこちらに基地が造られ、拡張も図られ、合同軍事訓練は強化され、「日本の防衛でなく、米国とともに戦争をする」を確実に進んでいるようです。

基地のない大阪で暮らしている自分が、知らずに「無関心でいる」ことをあらためて感じました。

日本は、昨年から今年にかけても、台風をはじめとする自然災害にさらされているにもかかわらず、武器調達には「爆買い」を即決し、千葉県・長野県など被災地への救援などは遅れています。

また、ミサイル防衛をはじめ、莫大な軍事予算は「有効な防衛手段とも思えず、税金の無駄遣いではないのか」と考えさせられる集会になりました。

(教宣部 山本)